



まほろばの丘から



令和3年6月4日 文責 校長 江口 尋信

「希望」「展望」を伝えること

「緊急事態宣言」の延長に伴い、様々な学校行事の延期、中止、実施方法の変更が生じています。子どもたちが新型コロナウイルス感染症と向き合わざるを得なくなって1年以上が経ちます。ある新聞コラムに、新型コロナが児童・生徒に与えるストレスについて書かれていました。「学校や家庭の様々な行事が突然なくなる。理由を聞いても『だって仕方がないでしょう。』という返答。子どもたちは「どうせがんばっても無駄だ。」という無力感でいっぱいになる。結果として、自尊心が低くなってしまう。」という内容だったと記憶しています。コラムの結びとして、子どもたちには「わたしたちはいつか必ず新型コロナウイルスに打ち勝つ。そうすれば、今我慢していることが自由にできるようになる。だから、健康に気を付けて生活していこう。」というように、アフターコロナについて触れ、希望や展望を子どもたちに伝えることの大切さが述べられていました。

このコラムには、はっとさせられました。これまで、保護者や地域の皆様には、おたよりを通じて様々な情報をお知らせしてきましたが、直接子どもたちに学校としての考えを丁寧に伝えてこなかったように思います。今回、運動会の延期に伴い、全校放送で子どもたちに以下の話をしました。

全校の皆さん、こんにちは。(中略)

さて、福岡県で出されている「緊急事態宣言」が、6月20日まで延びることとなりました。6年生の運動会実行委員の皆さんにはお話をしていましたが、緊急事態宣言中は運動会を開催することができません。そこで、6月11日(金曜日)に予定していた運動会は、「秋」に行うようにします。「秋」にするのは、6月11日から先は、夏に入りますます暑くなり、熱中症の心配があるからです。

練習をがんばってきた全校の皆さん、特に、委員会活動で運動会の係活動を始めた5・6年生の皆さん、実行委員としてやる気に満ちていた6年生の皆さんには申し訳ない気持ちでいっぱいです。

しかし、これまで、運動会に向けて練習を積み重ねてきたことは、けっして無駄になったわけではありません。運動会の練習を通して体力や運動する力は高まっていますし、学年や学級でまとまって集団行動を行うこともできるようになっています。これらのことは、これから生きていく上で役に立つとても大きな成長です。運動会は「秋」に延期となりましたが、どうか、それまで、運動会へのやる気をなくすことがないよう、元気に学校生活を送ってほしいと思っています。

校長先生も、秋に皆さんと運動会ができることを楽しみにしています。

この話をした日の掃除の時間のことです。5年生が「校長先生、運動会が秋になってもがんばります。」と話しかけてきました。前向きな言葉に心が温かくなりました。また、ある学級では、特別活動の集会活動として「運動会、残念だったけど秋にがんばろう会」という集会活動を開くそうです。子どもたちのもつ楽天性や明るさ、前向きな姿に触れ、正面からきちんと話す・説明することの大切さを改めて感じました。ご家庭や地域でも、子どもたちの学校生活への希望、展望につながるような会話を広げていただければ幸いです。

※お詫びと訂正 先日お配りした「D-West 6月号」において、7月2日(金)が参観日となっていました。正しくは、コミュニティ・カレンダーのとおり、7月には授業参観の予定はありません。お詫び申し上げますとともに、訂正をお願いいたします。